

JA全農えひめ情報

みらいへど

2

■特集

「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組み状況①〈営農食糧部〉

2017・February



愛媛の酒蔵めぐり

20

梅美人、鷹雄



▶西洋歴史様式の影響を受けたタイル張りの洒落た外観。奥には高さ23mの煙突がみえる

梅美人酒造株式会社

代表銘柄 梅美人、鷹雄
 創業 1916年(大正5年)
 代表者 代表取締役社長 上田 英樹
 住所 八幡浜市1557-2
 TEL 0894-22-0312

▲(右)「鷹雄 大吟醸」兵庫県産山田錦を使った原酒。アルコール度数は高いがフルーティな味わい
 (中)「梅美人 純米大吟醸」しずく媛の柔らかくとろけるような旨さが魅力。華やかな香とすっきりとした後味
 (左)「みかんのお酒 媛麗(ひめうらら)」八幡浜産みかん果汁100%のやさしいリキュール

梅美人酒造は創業者の上田梅一氏の名から「文字と、すっきりとしたきれいな酒をイメージさせる『美人』」を使って名付けられました。昭和10年に県内一の生産量の記録が残る県内有数の蔵元です。5カ所の国指定登録有形文化財を有し、八幡浜入港の船が目印にした高さ23mの煙突、上座下座とならない左右対称の床の間が並ぶ36畳の接待座敷に往時がしのべれます。水は金山出石寺のある出石山水脈の地下水、米は県内産の松山三井としずく媛を主に、伊方杜氏の技を継承する若き蔵人たち、三位一体の酒造りです。作業は時代の流れとともに機械に委ねるところが多くなる中、蒸米の自然放冷など核となる部分は労力を惜しまず昔ながらの手作業で。こだわりの一つ、麹室は厚さ40cmの周囲壁に糊殻をぎっしり詰めた自然断熱材により、ゆっくりと発酵させて、女性層にも支持される米の甘みが味わえる旨口のすっきりとしたきれいな酒に仕上がります。

「お客様にたくさんのワクワク感を提供していきたい」と代表の上田英樹さん。発酵過程でクラシック音楽を聞かせるのも、その一環です。どんな酒になるのかは出来上がったのお楽しみ！創業101年目の梅美人酒造は、ワクワク感の先にサプライズを見出す新しい挑戦へ踏み出していきます。

めぐり〜ど

February 2017

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



うっすらと雪が残る寒い朝。新鮮なブロッコリーを出荷するため、収穫作業は夜明け前の凍てつくような寒さの中で、頭にライトをつけて行います。作業が一段落したころに、子供たちが元気に登校してきます。水路の土手にフキノトウを見つけては大はしゃぎ。水仙も菜の花も寒さに負けず咲いています。春はもうすぐそこまで来ています。

●表紙：ブロッコリー畑とフキノトウ
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.194

愛媛の酒蔵めぐり⑳～梅美人酒造(株)

2

〈特集〉「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組み状況①〈営農食糧部〉

**JAの担い手育成・対応強化の支援と
米麦の収益改善、業務用米普及を推進**

8

ふるさと ESSAY VOL.262

「椿」をめぐる古今東西

泉谷 八千代さん

10

TOPIC NEWS

14

なんでもBOX

15

統計BOX

16

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉 **ブロッコリー**

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimemosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

J Aの担い手育成・対応強化の支援と 米麦の収益改善、業務用米普及を推進

J A全農えひめは、平成28年度から、J Aグループ自己改革の最重点実施分野である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」(共通目標・販売取扱高の拡大)の実現に向けて、耕種事業において、「農業所得増大チャレンジ事業」を展開しています。

今回から2回シリーズで、営農食糧部と園芸部の取り組みを紹介します。

今回は、営農食糧部の営農支援課におけるT A CおよびJ Aグループ愛媛担い手サポートセンター、食糧生産課(米麦)の取り組みを紹介します。

〈営農支援課の取り組み〉

J AのT A C活動の支援を通じた担い手対応の強化、
担い手育成や担い手へのJ A事業支援のサポートに取り組む

J A全農えひめは、平成28年度から「農業所得増大チャレンジ事業」を展開し、J Aグループ自己改革の最重点実施分野である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」(共通目

標・販売取扱高の拡大)の実現に向けて、マーケットイン(実需者ニーズ)に基づく生産・販売事業方式への転換、トータルコスト低減等の実践、多様な農業者ニーズへの対応を

重点事項として、J A・農業者への支援や県域機能の強化によるJ A事業の補完・支援に取り組んでいます。

営農支援課は、同事業の推進事務局として部門間連携の強化に加え、「T A Cチーム」として、①生販マツチング・担い手支援要領を通じた支援、②J A T A C(地域農業の担い手)に向くJ A担当者)の人材育成、

③県域T A Cによる担い手対応を通じて、担い手対応のフォローに取り

平成28年度「生販マッチング担い手支援要領」を通じた支援状況

表1. 生産性向上支援対策(新規)

対策で 取り組む事項	助成算出 基礎費用	支援見込
生産性向上対策	生産資材費 (園芸資材)	7JA 2,741千円

【主な支援内容】

- 山の芋マルチ栽培における反収向上
- 電動ハサミ等の普及による省力化
- イチゴ反射資材の導入による品質の向上
- 露地みかんのマルドリ技術導入
- 柑橘、柿のマルチ被覆による高品質生産
- ハウスの紫外線カットフィルムによる高品質生産

表2. 新規就農者育成・労働力支援体制整備対策

対策で 取り組む事項	助成算出 基礎費用	支援見込
新規就農者育成	育成支援のための経費 (生産資材費等)	7JA 4,521千円
担い手への 労働力支援	労働力支援のための経費 (農具費・備品類等)	5JA 1,116千円

【主な支援予定】

- JA本体・JA出資型農業法人等における研修生の受入など新規就農者の育成に係る費用助成。
- JAによる農作業支援等に係る費用助成。

表3. 地域農業活性化支援対策

対策で 取り組む事項	助成算出 基礎費用	支援見込
新規作付けによる 新たな産地づくり	種苗費 生産資材費	8JA 14,661千円

【主な支援予定】

- さといも(4ha)、玉ねぎ(19ha)、きゅうり(3ha)、いちご、なす、ピーマン、トマト、キウイフルーツ、くり等の新規作付けに係る種苗費や生産資材費に対して助成。

表4. JAマーケティング調査・
新品種・新技術実証対策

対策で 取り組む事項	助成算出 基礎費用	支援見込
新技術 新品種	生産資材費	10JA 3,330千円
マーケティング 調査	マーケティング 調査費用	7JA 1,799千円

【主な支援予定】

- 水稲(酒造用米、業務用多収性品種)の実証や光合成促進機(炭酸ガス発生装置)の実証などに対する費用助成。
- 県内外量販店やJA直売所等にて、試食販売とアンケート調査の実施費用に対する支援。

組んでいます。また、「JAグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会」(JA愛媛中央会・JA愛媛県信連・JA全農えひめ・JA共済連愛媛で構成)を通じて、事業に横軸を通して、担い手の育成や総合支援など担い手対応力の強化に取り組んでいます。

TACCチームの取り組み
JAのTACC活動の充実・
活性化を通じて担い手支援

(1) 生販マッチング・担い手支援要領を通じた支援

①生産性向上支援対策、②新規就農者育成・労働力支援体制整備対策、③地域農業活性化支援対策、④JAマーケティング調査・新品種・新技術実証対策により、効果的な担い手・JAへの支援を行い、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化を図っています。平成28年度の本要領を通じた支援は、生産資材費を中心に2,800万円程度の助成を見込んでいます。(表1～4)

(2) JATACCの人材育成

県内TACCの資質向上を目的とし、効果的な研修を企画しています。昨年6月には現地圃場研修を開催してドローンや玉ねぎ収穫機の実演、7月には農業サポート実践会議を開



▲法人研修生との意見交換

催し、J Aの総合力を発揮した担い手への農業経営支援の実践に向け、営農部門・信用部門合同で研修会を実施しました。また、年間2回T A C管理者会議を開催し、県内の取組み状況について情報共有するほか、さらなる担い手支援要領の充実を目的に協議を行っています。

(3) 県域T A Cによる担い手対応

J A全農えひめでも営農振興課に県域T A C 3人(兼務)を配置し、県内の大規模農家や法人を訪問し、担い手の意見・要望に応える活動に取り組んでおり、今年度は昨年12月末までに約70経営体に対し286回

の訪問を実施しました。若手農業者への対応を強化し、さらなる担い手対応の充実を図っていきます。

こうした取り組みを通じて、愛媛県におけるT A Cの取り組みは年々充実してきており、現在12J A・70人のT A Cが担い手への訪問活動を通じて、意見・要望の収集、担い手の声を基にJ A内部で協議し、それを担い手にフィードバックすることで、担い手の経営支援、地域農業の活性化とJ A事業の発展に貢献しています。

特に、各J Aで開催しているT A C月例会には役員も出席して情報の共有や農業者の課題解決に取り組んでいることで、T A Cの意識やレベルは年々高まっています。最近では、営農部門内だけでなく金融部門との連携も強化され、金融部門の責任者・担当者がT A C月例会に参加するほか、T A Cと同行で担い手訪問する活動も多くなってきました。担い手の幅広いニーズに対応できる体制が充実してきており、T A Cの役割が地域農業を支える取り組みとしてますます重要になってきています。

こうした県内J Aの取り組みは、全国の大会で毎年J A表彰やT A C表彰を受賞するなど、高く評価されています。平成28年度は、J Aおちいまばりが2度目のJ A表彰、J A西条の野村智美さんとJ Aひがしう

わの上山将人さんがT A C表彰を受賞されました。

担い手サポートセンター協議会を通じた支援強化

平成28年度から中央会・連合会が連携し、「農業者の所得向上」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向けて、担い手の育成やJ A総合事業による事業支援の強化をサポートするとともに、「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」の利活用による愛媛農業を振興するため、「J Aグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会」を設置し、営農・販売・購買・金融・共済が一体的に支援する体制を整えました。

協議会として連携を深めるため、中央会・連合会の実務担当者による検討会(毎月)、役員による連絡協議会(四半期ごと)を実施し、J Aおよび担い手の抱えている課題等を整理するとともに、サポートセンターとして支援策の協議を重ねています。

平成28年度上期は、J A役員に対して各連部長によるワンストップヒヤリングを実施し、担い手サポートセンターに対する期待や要望・意見を集約しました。その中で特に要望の多かった新規就農者やJ A出資型



▲J Aグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会

法人等「担い手の育成対策」、農作業や共選等繁忙期の「労働力の確保対策」、担い手対応を最前線で行う「営農指導員の人材育成」に加え、連絡協議会で出された「農地流動化対策」を加えた重点4項目を掲げ、下期より取り組みを開始しています。

(1) 担い手の育成対策

「担い手の育成対策」として、各連合会の担い手支援事業の活用により新規就農者の育成やJ A出資型法人・集落営農法人の立ち上げなどに

取り組んでいます。また、法人訪問を中心とするJ A愛媛県信連と大規模農家訪問を中心とするJ A全農えひめの訪問先リストを共有するとともに、県域T A Cと担い手金融リダー1合同での訪問を進めています。12月末現在で7法人を合同で訪問し、営農と金融両面からの視点で対話ができることから、担い手からも好評価を得ており、今後も活動の幅を広げ、迅速に課題解決ができるよう取り組んでいきます。

(2) 労働力の確保対策

「労働力の確保対策」については、J Aが実施する労働力支援体制整備や農作業支援に係る農機具購入等の助成を行っています。

(3) 営農指導員の人材育成

指導員だけでなくT A Cや融資担当者・L A等、担い手対応するJ A

職員全体の人材育成を目的に各種研修会を開催し、12月末現在で延べ1,346人が参加してスキルアップを行っています。

(4) 農地流動化対策

「農地流動化対策」については、愛媛県の農地中間管理機構と連携するとともに、愛媛県法人化・農地集積支援チームへ参画し、地域ごとの法人化説明会などに積極的に参加しています。

J Aグループ愛媛担い手サポートセンター連絡協議会が立ち上がったばかりで、J A・担い手の声をまだ十分に拾い上げてできていない状況です。今後も中央会・各連合会が連携を強化し、農家手取りの最大化ならびに愛媛農業の振興に貢献していきたいと考えています。

〈食糧生産課の取り組み〉 収量・品質の向上による収益性の改善と 業務用向け多収性品種

愛媛県内の水稲の作付面積は生産基盤の弱体化で減少傾向にあります。また、30年連続生産量日本一のはだか麦を中心とした麦作においても単収の低下が深刻化してきています。

これらの状況を踏まえ、食糧生産課（食糧チーム）としては再度基本に立ち返り、収益性を伸ばすことによるトータルコストダウンに取り組んできました。

表5 水稻栽培体系試験 (品種:ヒノヒカリ)

J A	面積	深耕 (作土)	堆肥等	土壌改良剤	栽植密度	成熟期	収穫時根長 (対象区)
周 桑	15a	10→15cm	豚糞堆肥2t	美土里60kg	47株/坪	10月4日	30cm (18cm)
今 治 立 花	27a	15→20cm	豚糞堆肥2t	美土里60kg	45株/坪	10月4日	28cm (28cm)
松 山 市	14a	18→20cm	アヅミン 80kg	美土里70kg	42株/坪	10月7日	29cm (18cm)
えひめ中央	18a	11→20cm	アヅミン 80kg	美土里65kg	44株/坪	10月12日	23cm (22cm)

収量・品質向上を目指した
「土づくり」「根づくり」
栽培体系試験

農家手取り最大化を目指して
なかで、水稻における資材費の削減
(肥料・農薬) だけでは限界がある
ため、収量・品質の向上による収益
性の改善に取り組んでいます。



▲試験区と対象区と比較

特に近年地力の低下、作土の浅さ
などから根量が少なく、収穫直前ま
で活力ある根が残っていないことに
着目し、28年度は肥料農薬課・農機
課と連携して、気象変動にも耐えう
る健全な「土づくり」「根づくり」
にポイントをおいた総合展示圃を設
置しました。

具体的には県内4圃場を選定し、
「深耕」「堆肥の施用」「土壌改良材
の施用」「疎植」の4項目に重点を
置き、根をより深く、より広く張ら
すことを目標に実証を行いました。

「深耕」については、ディスクロー
タリーを用いて作土深20cmを目標に
掘り起こしました。「堆肥」につい
ては豚糞堆肥を2トン(10aあた
り)、または代替えとしてアヅミン
を80kg散布しました。「土壌改良材」
には、稲に必要なけい酸、鉄、りん
酸、苦土を含む「鉄強化美土里」を

散布しました。最後に根を横に張ら
すため、坪あたり50株以下の「疎植」
にして株間を広く取りました。(表
5)

生育初期は、作土の極端に浅かつ
た圃場では改善が実感されたもの
の、多くの圃場では対照区との差が
あまり見られませんでした。しかし
収穫してみると、4圃場中2圃場で
収量において明らかに増収となつて
おり、「土づくり」「根づくり」の効
果がみられました。また、収穫後の
掘り取り調査で、写真1のように根
長、根量においてもその差は歴然と
していました。

これらの結果から、「土づくり」「根
づくり」といった基本技術が、今年
のような夏の猛暑、9月の長雨と
いった天候不順の中でも作物への影
響を最小限に抑え、収量・品質向上
につながる実証されました。
今後は、次年度も継続して実証して
いくとともに、実施が可能な生産者、
集団から実践していただくよう推進
を進めていきます。

業務用向け多収性品種 の検討

家庭用の米の消費量が年々減少す
るなかで、ライフスタイルの変化に
より中食(コンビニ等)、外食(ファ
ミレス等)で使用される業務用米の

割合は順調に増加しています。その一方でこうした消費者、実需者ニーズに因應するための業務用米の生産対応が追いついていないのが現状で、特に飼料用米の生産が増加して業務用米がさらに不足している状況です。そのため、業務用米として対応できるとともに、収益面からも多収性品種の選定と栽培技術確立のための実証を行いました。

品種試験としては、全国的にも実績のある「あきだわら」、福井県で奨励品種にも指定されている「あきさかり」、実需者から根強い要望のある「日本晴」の3品種を選定し、

図1 試食で「おいしい」と回答した人

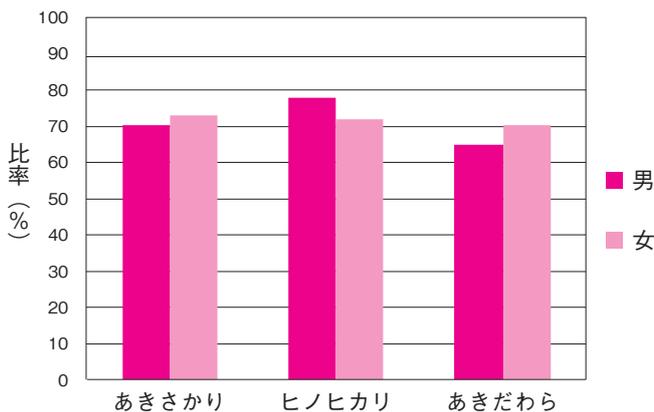


表6 業務用多収性品種の実証品種 (標準施肥)

品種	玄米重 (kg/10a)	収穫期	特徴	その他
あきだわら	644	コシより2週遅い	良食味	各地で推進中
やまだわら	718	5月上植10月刈	登熟期長・冷凍米飯向	感受性除草剤有り
とよめき	738	コシより1週遅い	やまだわら×イクヒカリ	感受性除草剤有り
ふくのこ	644	ヒノとほぼ同	高アミロース	育成地福山市

注:品種特性は農研機構(育成地:つくば市・福山市)での標準施肥体系による実証データ

5JA6圃場で実施しました。栽培、施肥防除は、普通期品種のヒノヒカリを対象に、生育の特長や出穂期、収穫期、施肥量等を確認。収穫期には収量調査、食味検査を実施するとともに、一般消費者を対象とした食味アンケート調査を実施しました。「収量性においては、「あきさかり」と「日本晴」は収量が思ったほど伸

びなかったものの、「あきだわら」においては3圃場中2圃場で10aあたり600kgを上回り、多収性品種として愛媛県でも有望であることが実証できました。

食味においては、昨年10月に開催したJA全農えひめ主催の「レインボーフェスティバル」で、約100人の消費者を対象に、「あきだわら」、「あきさかり」のほか、対照区として「ヒノヒカリ」を加えた3品種で食べ比べを実施しました。その結果、図1のように3品種とも約7割の方がおいしいと答えており、品種による有意差は見られない中で、業務用として充分対応できることが実証されました。今後は(株)ひめライスと連携し、実需者も交えた試食会等を通じてさらに検証を行っていくことにしています。

今回の試験結果を踏まえ、次年度は多収性と食味において優位性があった「あきだわら」を中心に、さらなる多収性が期待されている「やまだわら」、「とよめき」、「ふくのこ」の3品種を新たに加えて実証を行う予定です。(表6)

今後は、これらの4品種の生育特性や栽培期間、施肥量の違いによる多収性や食味等の検証・選定を行うとともに、生産者手取りのアップにつながるよう栽培可能な地区から導入を行っていきます。



「椿」をめぐる古今東西

私の愛する「伊予」と「大和」の人たち。二つの国の古より続く深い人と絆についての物語。

今回は、「椿」がテーマです。

「古事記」という奈良の都で編纂された歴史書に、四国の誕生が描かれています。「イザナギ」「イザナミ」のご夫婦の神様が、天から降りて、最初に生んだのが淡路島。「いよノ」と続けて生んだのが、この四国の島です。古事記は、四国の事を、「伊予二名の島」と呼んでいます。つまり、四国全体を伊予と呼び、四県には二組の男女ペア、四柱の神様がいると言うのです。ワンピースは、伊予（愛媛）と土佐。愛比売命という女性神はイザナギ、イザナミ両神の大事な愛娘の女神様でした。さらに讃岐と阿波が一对のペア。特に阿波の女神「オオゲツヒメ」からは後に、蚕、稲、麦、粟、大豆、小豆が生まれます。つまり四国の女神の国は、いずれも豊かで穏やかな国だと分かります。

す。ちなみに、古事記に記された国名を現在の都道府県名に使っているのは愛媛県だけだそうです。

では、愛比売命は現在どこにおられるのか、ご存知ですか？「お椿さん」です。伊予豆比古命神社のご夫婦神と一緒に祀られています。かつてこの社地に椿が茂っていたと伝えられています。

椿は、女性の黒髪を美しくする整髪料としてだけでなく、当時は搾った実を食用油としても重宝されていました。16世紀に大陸から、菜種油や胡麻油が入るまでは、料理には椿油でした。そして、精油されれば、今で言うアロマオイルとしても珍重されていたそうです。椿油が、如何に貴重だったか。遣唐使の献上品にもなり、渤海と言う国の使節は、わざわざ帰りの土産に椿油をと所望しています。愛媛の女神様が、椿がお好きな理由、よく分かります。

泉谷 八千代

YACHIYO IZUTANI

NHK松山放送局長。昭和33年9月9日生まれ、大阪府出身。番組ディレクターとして多数の番組を制作、その後、大阪放送局番組制作部長として「歴史秘話ヒストリア」「大仏開眼」、連続テレビ小説「てっぺん」「カーネーション」などの番組を統括。奈良放送局長、人事局ワーク・ライフ・バランス推進事務局長を経て、平成27年6月より四国の4放送局トップに当たる現職。全国・全世界へ四国の魅力を発信する「Discover 四国キャンペーン」や、南海トラフ地震等に備えた防災報道の責任者でもある。

奈良在任時に野菜を中心とした料理の美味しさに目覚め、以降、食生活は菜食中心。愛媛県の産品では、網かわなすの田楽、果物の紅まどんな、河内晩柑がお気に入り。日本酒を嗜み、愛媛の地酒のほとんどの銘柄は体験済み。休日は史跡などを巡り、愛媛と奈良の歴史的なつながりを探究中。



▲「伊豫豆比古命神社」楼門の扁額

前回の稿で、聖徳太子の道後温泉ご来訪の際の椿の庭の話をご紹介しました。つまり古代、松山には椿が到る所に咲いていたと想像できます。

一方、大和の国。古代の国道1号線「山の辺の道」には、「海柘榴市」という市場の跡があります。椿は、当時「海柘榴」という字をあてていました。三輪山に自生する椿を街路樹として移植したシヨッピング街です。そこでは当然、椿油も商われ、今で言えば、デパートの化粧品売り場や地下食品売り



▲伊豫豆比古命神社 外観

場のフロアのような、華やぎとエネルギーが横溢します。此処に若い女性が、そして男性が集います。男女のデートスポットとなり、当時は歌を贈答して、恋の駆け引きが繰り広げられます。この歌のやり取りを「歌垣」と言い万葉集にも、「八十の衢」80もの交差点のある、賑わう市の中で、見染めた女性に、「君の名は？」と問いかける、今でいえば、ナンパの歌が残されています。ただ、三角関係がこじれて、帝が一つの氏族を武力で滅ぼしてしまう凄

▼道後公園に咲く椿



▲椿の湯



▲道後公園の椿、薄桃色の「曙」



▲道後公園の椿。正岡子規の句と

惨な政治事件に発展したのも、この海柘榴市が舞台でした。

いつの時代も青春とは格別なものです。が、「椿」は、古代の若者の青春に欠かせぬアイテムでした。

今、愛媛県では、椿の精油はほとんど行われていませんが、折角大和と伊予を結ぶ「椿の湯」や愛媛の国生み神話と縁の深い作物です。一度、新たな女性向けブランド化をめざし生産を検討されてみては如何でしょうか？

●がんばれ受験生！「『愛媛いよかん』 = いい予感」 湯島天神で合格祈願「愛媛いよかん」3,000個配布

JA全農えひめ果実課は、愛媛県が全国生産量の約9割を占める伊予柑をPRしようと、「がんばれ受験生！『愛媛いよかん』 = いい予感」をコンセプトに、1月14日、東京都文京区の湯島天神の境内で、合格祈願のお祓いを受けた「愛媛いよかん」を参拝者3,000人に無料配布しました。

この取り組みは、合格の縁起物として、またビタミンCがたっぷりの伊予柑で受験を控えた大事な時期に風邪を予防してもらおうと毎年実施しており、今回で32回目。受験シーズンの恒例行事になっており、合格祈願で参拝する受験生や家族に合格の縁起物として喜ばれています。

当日は、語呂合わせで「愛媛いよかん = いい予感の日」。大学センター試験初日にもかかわらず、例年同様、配布開始前から行列ができる中、境内に「合格まで風邪をひかずに頑張ろう。愛媛いよかん = いい予感」の天幕を掲げて、かすり姿の女性が、参拝される受験生やその家族

に「いい予感が当たりますように」「縁起のよい伊予柑です」と声をかけながらお祓いを受けた伊予柑とメッセージの入った袋を手渡し、参拝者は嬉しそうに持ち帰っていました。

JA全農えひめ果実課は、「愛媛いよかん = いい予感」をキャッチフレーズに、学業や恋愛成就等の縁起物としても伊予柑の購入・消費拡大を呼びかけています。



▲「いい予感が当たりますように」と配布



▲愛媛いよかんポスター



▲湯島天神で配布した愛媛いよかん。受験生へのメッセージも添えています

●甘平選果目揃え会

「甘平」ブランド確立に向けて厳選出荷を徹底

J A全農えひめ果実課は、1月6日、愛媛オリジナル品種「甘平」の出荷を前に、八幡浜市のJ Aにしよう本店で「甘平選果目揃え会」を開きました。

目揃え会は、消費者・販売先の期待に応えるため、品質の向上と品格の統一をめざして行っており5回目。J Aの生産販売・選果担当者と愛媛県、市場関係者など約40人が出席しました。

会では、J A全農えひめ果実課の担当者が、サンプル果実を見せながら選別・出荷基準を説明し品格・価格に見合った商品を出荷することを呼びかけました。また、東京と松山の市場関係者は、「去年は大玉を中心に品質のバラつきがあった。適期収穫・出荷を徹底し、これぞ愛媛の甘平といわれる果実を出荷してほしい」「価格に見合う高品質果実を出荷してほしい」という要望が出されました。

「甘平」は、愛媛県が平成19年に品種登録した爽やかなシャキッとした食感と甘さが魅力。1月中旬から2月に出荷される品種で、面積・生産量とも年々拡大しています。

28年産生産予想量（28年12月時点予想・J A関係）は、面積が前年比118%の233ha、生産



▲J A全農えひめの担当者（左）が果実との比較で基準を説明

量は前年比111%の1,619 tで、出荷計画量（1月10日時点）は1,200 t（前年比114%）を見込んでいます。J A全農えひめ担当者は、「生産量・出荷量は増加しているが、厳選出荷を徹底して市場単価は前年並以上をキープしたい」と話していました。

目揃え会の後には、愛媛県の職員がサンプル果実を見せながら、県が発表した「愛媛QUEEN（クイーン）スプラッシュ」（糖度13度以上で外観が特に優れた最高品質の甘平）の選果基準等を説明したほか、優良見本園の視察研修を行いました。

●2016 J A愛媛農機ビッグフェア

J A農機の総合展示会に1,388人が来場

県内J AとJ A全農えひめ農機課は、12月2日・3日の2日間、松山市のアイテムえひめで、取扱メーカー等の協力を得て、県内統一の農機総合展示会「2016 J A愛媛農機ビッグフェア」を開きました。

フェアは、農機の計画的・効率的な適正導入の促進と安全使用の啓発、効率生産に役立つ作業体系の提案や省力機械の普及促進、新機種・新製品の説明・研修などを目的に毎年開催しており、26回目。

今回は「笑顔あふれる愛媛の農業。次代につなぐJ A農機」をテーマに、大型農機から小物資材までメーカー21社が効率化や高品質生産に対応できる高性能機械・省力機械、新製品や小物特価品等を多数展示したほか、野菜作関連機械コーナーなどを設置。J A全農えひめが所得増大チャレンジ事業や肥料農薬の低コスト資材の紹介を行ったほか、安全使用、J Aバンクえ



▲会場には1,388人が来場

ひめ農業資金おまかせ相談、リース相談、お買い得商品等のコーナーも設置し、農機・農業の関連情報を発信しました。

期間中は、県内J Aから1,388人が来場し、最新農機のデモンストレーションなどを通じて性能や特徴などを確認していました。

●県畜産振興連絡協議会と県議意見交換会

将来に向け再生産可能な政策確立などを要望

愛媛県畜産振興連絡協議会は、12月12日、松山市内で自民党県連畜産振興議員連盟（会長＝渡部浩県議）と「畜産に関する意見交換会」を開きました。

意見交換会は、平成13年から毎年行っており16回目。県議会議員17人のほか、県内4畜種（肉牛・養豚・酪農・養鶏）の生産者組織の役員、県・J A関係者など57人が出席。

協議会事務局（J A全農えひめ畜産部）から畜種別に情勢と課題を説明し、経営安定対策など将来にわたって再生産が可能となる政策確立、配合飼料価格安定制度の充実、県内産畜産物の消費拡大の取り組み推進などを要望したほか、県内4畜種の代表が、個別の課題と要望事項を説明しました。

協議会の松田智副会長は、「畜産物の販売価格は高値で推移しているが、配合飼料価格の高止まりなど生産コストは過去最高水準となっている。TPPの発効見通しが不透明にもかかわらず、国民への説明が不十分なまま国会承認が急がれ、生産現場では将来への不安・不満は増している。アメリカが2国間交渉を迫ってくるとの見方もあり、TPP関連の対策を速やかに実施してほしい。県内の畜産生産基盤の維持発展と県内消費者に安全・新鮮な畜産物の安定供給に向けて、引き続き協力をお願いしたい」と要望



▲要望する松田副会長（中央）

しました。

議連の渡部会長は、「TPPは不透明な状況だが、今後の対応や皆さんの状況や要望を聞きながら、引き続き対処していきたい」と応じていました。

畜種別の主な要望は次のとおり

- ◆愛媛県肉牛生産者協議会＝肉用牛経営安定対策の仕組みづくりと県費助成の継続、生産基盤維持・拡大、種豚導入支援に関する要望
- ◆J A愛媛養豚経営者協議会＝「養豚経営安定対策事業」の仕組みづくりと県費助成の継続、生産基盤維持・拡大と種豚導入支援に関する要望
- ◆愛媛県酪農経営者協議会＝指定生乳生産者団体制度に関する要請
- ◆愛媛県採卵養鶏経営者協議会＝採卵養鶏農家の経営安定に関する要望

●ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場

七草粥配布イベントや年末感謝祭が好評でした

J A全農えひめが東温市で運営する農産物直売所とコンビニの一体型店舗「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」、1月7日、出荷会員が地元でとれた七草を使って作った「七草粥」を来店客に振る舞いました。

この取り組みは、直売コーナーの出荷会員が組織するフレッシュ市部会が「七草粥お接待」として毎年取り組んでいる地域の消費者との交流イベントです。

当日は、出荷会員が早朝から大鍋で七草粥200人分を作り、来店客に「七草粥で無病息災を」などと呼びかけながら無料で七草粥を手渡しました。食べた方は、「家で作ったものより美味しい」「毎年食べています」などと笑顔を見せていました。



▲大鍋で作った七草粥をふるまいました

同店は12月23日～25日の3日間、1年間のご愛顧に感謝して「年末感謝祭」を開催。甘酒お接待や餅つき実演販売など多彩な催しを行い、来店された方々に喜ばれました。

●松山城正月イベントに(株)えひめ飲料協賛

愛媛ならではの…ポンジュースで鏡開き！

新年を迎えた松山市の松山城で、1月1日、お酒の代わりに愛媛を代表する「ポンジュース」を使った鏡開きが行われ、家族連れなど一般客約300人にジュースが振る舞われました。

この催しは、同城の指定管理者である伊予鉄道(株)が、元旦に愛媛県を代表する観光地の松山城で、クルマで来ている方や未成年者も含めて、愛媛を代表するジュースでもてなそうと平成21年から毎年開催しているもので、(株)えひめ飲料がジュースを提供しています。

当日は、本丸広場一ノ門前では新年を祝う太鼓が披露された後、鏡開きが行われ、(株)えひめ飲料の山本卓治常務のほか、松山市と伊予鉄道(株)、(公財)松山観光コンベンション協会の関係者が、ジュースの入った樽を打ち割りました。振る舞われたジュースを飲んだ方は、「愛媛といえばポンジュース。愛媛らしいおもてなしですね」「お城まで歩いて登ったので疲れた体にちょうど良い」などと話していました。



●JA愛媛野菜生産者組織協議会

愛媛慈恵会など児童福祉施設にいちごプレゼント

JA愛媛野菜生産者組織協議会とJA全農えひめ野菜花卉課は、社会貢献活動の一環として、楽しいクリスマスを迎えてもらおうと、松山市内3か所の児童福祉施設に県産いちご約150パックをプレゼントしました。この取り組みは、昭和62年から毎年行っている恒例行事です。

松山市東本の児童養護施設・愛媛慈恵会では、12月22日、JA全農えひめ野菜花卉課の職員が訪問し、児童23人を前に、「いちごを食べて楽しいクリスマスにしてください」とあいさつ。児童代表の池端あゆみさん(小6)に県産の「紅ほっぺ」48パックを手渡しました。

代表して石垣蓮さん(小5)が、「ありがとうございます。みんなで美味しくいただきます」とお礼のあいさつがありました。試食用のいちごを頬ばった児童たちは、「甘くて美味しい」「いちご大好き」と笑顔を見せていました。



同施設には、この他にJA全農えひめから県社会福祉協議会を通じて、もち米70kgと「POM愛媛いよかん」などジュース12ケースを贈呈。もち米は12月26日開催の餅つき大会で使用されました。

なんでもBOX

●第46回日本農業賞愛媛県代表表彰式

県代表に石田慎一さん、JA松山市久万高原トマト部会

第46回日本農業賞の愛媛県代表の表彰式（主催：JA愛媛中央会・NHK松山放送局）が、12月7日、松山市のJA愛媛で開かれ、個別経営の部で石田慎一さん（砥部町・JAえひめ中央）、集団組織の部でJA松山市久万高原トマト部会（代表＝渡部進部会長、98戸）が表彰されました。

同賞は、日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善と発展に取り組み、地域社会に多大な貢献をされている農業経営体を表彰するものです。

石田さんは、現在170aで温室みかん、紅まどんな（施設）、せとか（施設）などを栽培し、3世代・家族5人（本人・父・母・妻・長男）で年間労働配分した計画的な作業を行い、周年出荷できる経営体系を確立。卓越した栽培技術と経営力で安定的に県内最高水準の経営実績をおさめています。また、各種コンクールで農林水産大臣賞や愛媛県知事賞を受賞するなど、愛媛の柑橘農業を代表する存在として高く評価されました。

JA松山市久万高原トマト部会は、昭和46

年1月に設立され、現在98戸が20.4haでトマトを栽培し、販売金額5億2,155万円（平成27年度）。高品質安定生産に向け早くから雨除けハウスを導入したほか、桃太郎品種を繰り返し更新する栽培技術を確立するなど西日本有数のトマト産地を築き、ブランド確立に成功。農家所得の向上に寄与したほか、農業公社の研修を経てIターン就農者を中心に新規就農者19人が経営するなど後継者の育成に成果をあげ、地域農業の振興と地域活性化に貢献した取り組みが高く評価されました。



▲石田さん（左）と渡部部会長

●平成28年度第2回愛媛県TAC管理者会議

29年度支援要領の考え方を説明し意見・要望を集約

JA全農えひめ営農支援課は、TAC活動の充実・ステップアップに向けて、12月15日、松山市のえひめ共済会館で「平成28年度第2回愛媛県TAC管理者会議」を開きました。

TACは、地域農業の担い手に出向くJA担当者の愛称。「とことん会ってコミュニケーション」を合言葉に、県内では12JA70人が活動中です。

会議にはJAのTAC管理者など約25人が参加。JA全農本所からTAC活動の情勢報告、JA全農えひめから「生販マッチング・担い手支援対策要領」の28年度進捗状況報告と29年度要領の考え方、今後のTAC研修会等の計画を報告。29年度の支援要領作成に向けて、TAC管理者から意見・要望を聞きました。

また、JA愛媛中央会から「JA営農・経済事業改革実践運動の重点具体化方策案」、JA愛媛県信連から「JAバンクえひめ農業の夢・ヒアリング訪問の結果とJA農業おまかせ資金」について報告がありました。



統計BOX

平成27年農業産出額が公表されました — 農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)結果から —

表1 農業産出額上位10品目(愛媛県)

品目	平成27年	平成26年	27/26(%)
みかん	203	191	106
米	135	126	107
豚	129	136	95
鶏卵	61	64	95
いよかん	60	54	111
生乳	42	39	108
しらぬい(アコボ)	41	32	128
肉用牛	36	35	103
キウイフルーツ	27	29	93
清見	24	25	96
その他	479	455	105
合計	1,237	1,186	104

図1 平成27年農業産出額(愛媛県)

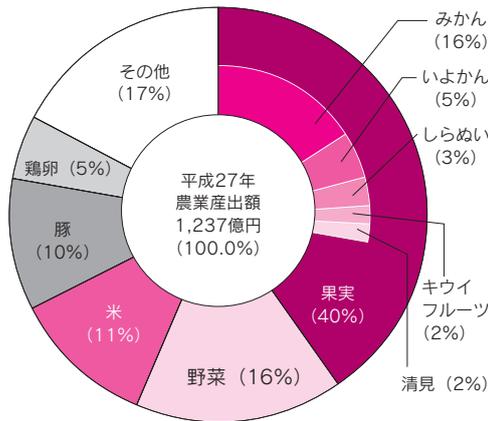
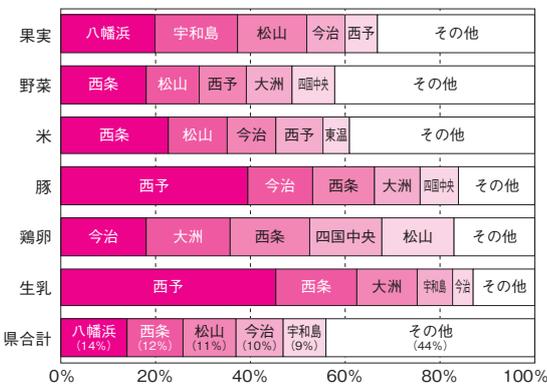


図1は品目別の県内の農業産出額

品目別産出額は果実が4割を占める

農 林水産統計に「農業産出額及び生産農業所得」という統計があります。これは農業生産の実態を価値額として把握することを目的に、農産物の生産量や価格などの統計を用いて推計したものです。今月は昨年12月に公表されたこの統計から農業産出額について見てみましょう。

図2 平成26年市町別農業産出額(推計)構成比(%)
(品目別、上位5市町)



今回、平成26年市町別農業産出額、市内トップは西予市

です。平成27年は、平成26年を51億円上回る1,237億円となっています。これは、米やみかん、いよかん、しらぬい等の単価が、前年に比べ上昇したことなどによるものです。内訳を見ると、果実が全体の40% (497億円)と大きなウエイトを占め、次いで野菜が16% (203億円)、その他に米、豚等が10%を超えています。個別品目では、豚、鶏卵、生乳など畜産物とともに、みかん、いよかん、しらぬい、キウイフルーツなどの果実がトップ10に顔を出しています(表1)。

ちなみに果実の占める割合が多い県は和歌山県(62%)、山梨県(59%)、次いで本県となっています。

農林水産省は昨年11月、「農業競争力強化プログラム」をとりまとめました。このプログラムは、農業者が自由に経営展開できる環境の整備とともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決しようとするもので、農業者の所得の向上に向けた具体的な施策を今後展開します。

(注1) 平成26年市町別農業産出額(推計)は平成18年まで農林水産省が公表していた市町別農業産出額とは集計方法が異なりますので、連続性はありません。詳しくは中国四国農政局愛媛支局統計チームにお問い合わせいただくか、農林水産省HP「統計情報」をご覧ください(検索アプリは「市町別農業産出額」で検索)。

中国四国農政局愛媛支局 統計チーム

額(推計)が併せて公表されました。これは県の農業産出額をもとに、農業センサス数値等を用いて市町別の農業産出額を按分・推計したものです(注1)。このデータから、県内ウエイトの大きい米、野菜、果実、豚、鶏卵、生乳のそれぞれ上位5市(町)の品目別農業産出額の構成比を求めてみました(図2)。

県計で見ると、西予市が県内の14% (169.4億円)、次いで西条市が12% (137.0億円)、松山市が11% (130.8億円)などとなり、これら上位5市で県内農業産出額のおよそ56%を占めています。

品目別では、果実が八幡浜市、宇和島市など、野菜は西条市、松山市、鶏卵は今治市、大洲市、豚や生乳は西予市などのウエイトが大きく、それぞれの地域の特徴が良く現れています。



●レインボーフェスティバルは毎回楽しそうですね。「鳥生レンコン」が紹介されていました。お正月に親戚のおじさんにいただいたのを思い出しました。「鳥生レンコン」はとても「ホクホク」で、すごく美味しかったです。この写真を見て懐かしかったです。
(宇和島市・仲元 祐司さん)

●レインボーフェスティバルの写真を見ていると、私も笑顔をもらってしまいます。JA全農えひめグループのすばらしいPRになったのではないのでしょうか？
裸麦は、鉄分、ビタミンB₁、マグネシウムと食物繊維を同時に摂取することができるので聞き、我が家ではお米に少々加えて炊いています。パン屋さんでは、お米パンはよく見かけますが、はだか麦パンも手近で買えるとうれしいです。
(今治市・阿部 紗弓さん)

●「紅まどんな」について。12月11日に東京新宿のISSETAN(伊勢丹)に行きました。地下の果物売り場も行ってみました。「紅まどんな」愛媛県産が誇らしげに陳列されていて、とてもうれしかったです。
友人にも「紅まどんな」は好評です。期待を裏切らない美味しさKEEPよろしくお願ひします。
(西予市・毛利 徳子さん)

●奈良に住んでいる義姉より、早くから「紅まどんな」の出荷が始まったら送ってね♡と頼まれていたのですが、人気があって、もう注文しても品物が無い状態！さすがですね！☆ ちなみに私は文旦が大好きです。愛媛県産の新種で文旦のような果肉のミカンの開発も期待しています。さつぱり系のみかんも女性に人気ですよ。
JA女性部のワンモアプラン運動で、地元のスツマイモ&栗を使って栗きんとんを作り、JA S窓口に来られた方に2個ずつラッピングしてプレゼントしました。美味しくて大好評でした。
(西予市・安岡 光代さん)

●ふるさとエッセー「愛媛みかんいまむかし」は、とても興味深いものでした。愛媛のみかんの奥深い昔の流れがとてもわかりやすく書かれていました。初めて知ることが多くてびっくりしました。吉田町の大乗寺にもぜひ行ってみたいと思います。泉谷さんの知識に驚きました。

●愛媛県産のお酒、とくに「にがり酒」について知りたいと思いました。
(松山市・竹村 洋子さん)

●エッセーを読んで、愛媛みかんの歴史を初めて知りました。不老不死の薬「タチバナ」の実とおもしろいですね。もし、大王が生きていたらうちに、この「タチバナ」の実を食べていたらどうなっていたのでしょうか？また歴史が変わってたかもしれないですね！今度、吉田町の大乗寺へ行ってみようと思います。
レインボーフェスティバル行ってきました。人々、人であふれていました。長い行列を作っているブースもあり、大変にぎやかでした。高い野菜もお安く買えてよかったです。
(松山市・山田 祥江さん)

●エッセーを読んで、みかんの歴史が500年ほど前の室町時代に始まったというのは非常にビックリしました。何気なく食べているのが、これからありがたいと思って食べますね。
(四国中央市・寺尾 智美さん)

●統計BOXを読んで、愛媛の裸麦は日本一なのですね。我が家では、小麦を作っています。家で消費だけなので、小麦粉にしようどんを作って美味しく食べています。手作りうどんはなかなか評判がいいですよ。
(大洲市・矢野 美恵子さん)

●はだか麦は30年余にわたって日本一だそうです。味噌や焼酎などの原料だそうです。作付面積も減少する中で、愛媛の生産者の方には頑張ってもらいたいです。
気候の影響も受けていると思いますが、みかんの時期が終わり、伊予柑・甘平へと愛媛の柑橘は続きます。愛媛みかん(いよかん)大使の宣伝キャンペーンも頼りにしています。
(今治市・乾 律子さん)

●愛媛の裸麦、今年も日本一。日本一ってとても気持ちのいいものですね。来年も頑張ってください。日本一になってほしいです。
(松山市・大西 傑さん)

【訂正とお詫び】
◆1月号統計BOXの記事で、図2の凡例「減少率(%)」が、上から「2.0, 4.0」となっていますが、正しくは「20, 40, 60, 80」の誤りです。訂正してお詫びいたします。

今月のクイズ

JA全農えひめは、今年も1月14日東京の神社で、「がんばれ受験生！「愛媛いよかん」いい予感」をコンセプトに、伊予柑3,000個を配布しました。学問の神様といわれる菅原道真公を祀っているこの東京の神社の名前は？
「○○天神(天満宮)」



●プレゼント
クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

●応募方法
折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

●締切り
平成29年3月16日(当日消印有効)

●発表表
「あぐり」で4月号で発表します。

●当選者発表
12月号の答えは「24回目」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 中矢はる子さん(松山市) 曾我部真貴さん(今治市)
- 野間 美紀さん(今治市) 武田 五月さん(西条市)
- 瀬川 憲子さん(西条市) 相原 靖志さん(松山市)
- 森 由佳さん(今治市) 山田八重美さん(宇和島市)
- 後藤 亜紀さん(今治市) 井上 喜美さん(八幡浜市)

編集後記

★特集では、2回シリーズで「JA全農えひめ」の取り組みを詳しく紹介しています。取材は、11月号の「農業の取り組み」から、12月号の「農業の取り組み」まで、2回にわたって掲載しています。松山ジュニア農園の紹介は、12月号の「農業の取り組み」で、お楽しみにしてください。

(正直)

今月の素材

ブロッコリー



冬の肌荒れ対策に、茎まで食べよう
カロテンとビタミンCが強力タッグ

▶(右)ブロッコリーとプリのチリマヨ焼き、(中)ブロッコリーのカニあんかけ、(左)ブロッコリーと牛肉の柚子胡椒ボン酢炒め



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

ブロッコリーと牛肉の柚子胡椒ボン酢炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約307kcal
ブロッコリー	1/2本(約120g)
塩(塩茹で用)	適宜
牛バラ肉(スライス)	200g
人参	1/5本
タマネギ	1/2個
ゴボウ	1/2本
ニンニク(スライス)	1カケ
サラダ油	適量
柚子コショウ	小さじ1
ボン酢	50cc

〈作り方〉

- ブロッコリーは小房に分け、塩茹でをする。
- 牛肉は5cm幅に切る。人参は短冊切り、タマネギは薄切り、ゴボウは斜め薄切りにする。
- フライパンに油を熱し、ニンニクを炒めて香りを出し、人参とゴボウを炒めて、牛肉とタマネギを加え炒める。
- 柚子コショウを溶かしたボン酢を③に加え、①を加え炒めて、全体にからめる。

ブロッコリーのカニあんかけ

〈材料・4人分〉	※1人あたり約96kcal
ブロッコリー	1/2本(約120g)
大根	1/4本
白菜	1/8個
塩(下茹で用)	少々
中華スープ	400cc
酒	大さじ1
塩・コショウ	少々
ショウガ(すりおろし)	小さじ1
水溶き片栗粉	大さじ2程度
カニ(缶)	100g
卵	1個
ゴマ油	大さじ1

〈作り方〉

- ブロッコリーは小房に分け、大根はイチョウ切りにし、それぞれ塩を入れて下茹でする。
- フライパンに中華スープと酒を入れ、①と食べやすく切った白菜を入れて火を通す。
- カニとショウガを加え、塩・コショウで味を調え、水溶き片栗粉でとろみをつけて、溶き卵をまわし入れる。
- 最後にゴマ油を加える。

ブロッコリーとプリのチリマヨ焼き

〈材料・4人分〉	※1人あたり約370kcal
ブロッコリー	1/2本(約120g)
レンコン	80g
プリ	4切
塩・コショウ	適宜
小麦粉	大さじ4〜
サラダ油	大さじ1
マヨネーズ	大さじ3
スイート・チリソース	大さじ4
ピザ用チーズ	大さじ4
パセリ(みじん切り)	少々
塩(塩茹で用)	適宜

〈作り方〉

- ブロッコリーは小房に分け、塩茹でして冷水にとる。
- レンコンは皮をむき、7mm厚の半月切りにする。
- プリは塩・コショウをふり、小麦粉をまぶす。
- フライパンに油を熱し、③と②を両面焼き、塩・コショウをふる。
- ボウルにマヨネーズとチリソースを混ぜ合わせる。
- 耐熱容器に④と①を盛りつけ、⑤とピザ用チーズをのせ、トースターかオーブンで焼く。
- こんがり焼きあがれば、パセリをふる。

えひめ逸品柑橘

愛媛はるみサイダー

期間限定

愛媛県 イメーシアップキャラクター みぎやん

柑橘王国「愛媛」の隠れた逸品をお届け

清見とポンカンを交配してできた「はるみ」。「はるみ」の名前は、「初春」に店頭と並ぶことから名付けられたといわれており、春の訪れを感じられる柑橘です。ジュースで爽やかな甘みの特徴のはるみ果汁炭酸をお楽しみください。

はるみは 春の柑橘なんよ♪

愛媛県産品

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

http://www.ehime-inryo.co.jp
(通販専用) http://www.pom-j.com



きれいな肌は、
きれいな服より
恋を实らせると思う。

ビタミンCを摂取しよう!



愛を伝えるものって
バラの花以外にない
と思ってました。

オレンジも“愛のシンボル”



みかんの
季節到来とともに
受験と恋の季節が
やってくる。

ドキドキがとまらない!



家族とこたつと
みかん。
心地よいぬくもり。

みかんが人をつなぐ。

カラダに「愛」を。
ココロに「愛」を。

愛媛のみかん



愛のオレンジロード オレンジは“愛のシンボル”。“オレンジデー”までの記念日に贈り合って、大切な人との絆を深めませんか。

11/3 12/3

みかんの日
恋するシーズンの到来
(旬の柑橘) 蓬洲みかん、紅まどんな、POM 愛媛みかんストレート100

1/14

いい予感
恋愛成就のいいきざし
(旬の柑橘) 伊予柑、ポンカン

2/14

バレンタインデー
愛を届けよう
(旬の柑橘) 伊予柑、ポンカン、はるみ、甘平

3/14

ホワイトデー
愛に応えよう
(旬の柑橘) デコポン、せとか

4/14

オレンジデー
愛を深めよう
(旬の柑橘) 清見タンゴール、カラマンダリン

4.14 Orange day

ふたりでおしごと。
4月14日(土)オレンジデー

詳しい内容はホームページをチェック!

愛のオレンジロード

JA全農えひめ



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。